

— 知恵の書9章・13-18、フィレモン9b-10、12-17、ルカ14章・25-33 —

(そのとき)大勢の群衆が一緒について来たが、イエスは振り向いて言われた。「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけて、『あの人は建て始めたが、完成することはできなかった』と言うだろう。(中略)だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」 —ルカ14章—

最後通告

世界のキリスト教諸教派は、9月1日〜10月4日(アッシジの聖フランシスコの祝日)までを「被造物の季節」と設定し、テーマを「被造物の声に耳を傾ける」と掲げて、共に暮らす家(地球)のために祈り、守るよう呼びかけています。

困難や苦しみ、いわゆる十字架を背負うことは、キリストに従って生きることです。キリストに従って生きるなら、神が創造で意図したように、世界は完成に向かい、被造物の命は救いを得るのであります。ところが、今、世界が気候変動と環境悪化という前例のない脅威にさらされています。それは、豊かさを目指して、神ではなく、自分の道を選んできた私たちの生き方の結果なのです。

これは、国の為政者、企業経営者、雇用者、投資家など、より大きな責任を担う人々だけでなく、その恩恵を生きている私

たち一人ひとりが資源の使い方を問われていることに他なりません。

私たちにとって取り返しのきかない歴史の二の舞への突入とならないように。かつて予想だにされなかった豪華客船タイタニック号の二の舞です。

彼等は、海水が床を浸しても事の重大さに気づかず、やがて、水が胸元に達して、時遅し、海の藻屑と化していったのです。今私たちが乗船している地球号の現実とダブります！

子どもの危機を見過ごす親はいないように、神はいく度、民の危機を救おうと預言者を遣わしたことでしよう！世界のキリスト教諸教派が、「被造物の声に耳を傾ける」よう訴えを起こすにいたった最近の事態は、神の最後通告を思わせます。

“あなたに言うべきことがある。あなたは初めの

頃の愛から離れてしまった。だから、何処から落ちたかを思い出し、悔い改めて初めの頃の行いに立ち返れ”(黙示2:4~5)と。

現在、私たちが襲いつつある脅威は、自然の秩序に合致していなかったことによる世界崩壊を意味するもの。それは、私たちが受け継いだ考え、生き方が誤っていたことを意味します。存在に偶然はありません。創造者の中に知恵と目的があり、人間が編み出した自然の法則というものはありません。

神を信じない者にも、自然の法則に逆らう道は存在していません。神を信じる私たちには尚のこと、人類に委ねられた自然と資源の使い方その管理について私個人に責任が課せられていることを忘れてはならないでしょう。2022年9月4日

主任司祭 昌川信雄